

協会概要



日本への恩返し



一般社団法人

日本昔ばなし協会は、


人の心に宿りつづける

「昔ばなし」から、

先人たちの知恵や想いを紡ぎ、

『恩返し』がめぐる社会を

実現します。



恩返しにかける 3つの想い

日本の昔ばなしには現代社会で忘れがちになっている知恵や想いが綴られています。親しい人への感謝、他者への思いやり、日本人としてのアイデンティティなどを、明日へつないでいくことで、恩返しが巡る社会の実現への歩みを進めていきます。

1、つながる

スマートフォンや SNS の普及により、人とのつながりが多様化しています。そのようなコミュニケーションツールの発展は、新しい可能性を見出すことができる反面、直接的な対面が希薄になった為、相手への思いやりや想像力がより求められます。私たちは思いやりや想像力を育むコミュニティをつくり、一人ひとりと地域と時代を、恩返しでつないでいきます。

2、伝える

日本の昔ばなしからは、たくさんの教訓や道徳を見出すことができます。私たちは、未来を担う子どもたちに向けて、その本質的な要素を再編集することで、より伝わりやすく届けることを心がけています。しなやかな道徳心と芯のあるアイデンティティを育むことを目指しています。

3、紡ぐ

私たちは昔ばなしに思いを馳せることで、暮らしのなかでも先人たちが築いてきた歴史の息吹を感じることができます。また、時代の流れにより途絶えてしまいそうな日本の貴重な伝統・文化・技術も昔ばなしの中に存在します。そのような日本の宝物を最先端の技術と新しい価値観との融合により、次の世代へ継承していきます。

協会設立の想い



当法人は、各地の昔ばなしの発掘と伝承、人材の育成、情報の共有と提供及び地域社会への貢献活動を行い、伝統文化の振興と社会教育を推進します。また、地域の活性化、地方創生を目的とし、その目的に資するために事業を行います。



代表理事
沼田心之介

ご挨拶

2005年 株式会社東北新社 入社
2012年 株式会社トマソン 入社
『ふるさと再生日本の昔ばなし』
音響監督、脚本、演出担当、
『ふるさとめぐり日本の昔ばなし』では
監督を兼務。
2018年 文化庁若手アニメーター育成事業
あにめたまご『ミルクパニック』監督
2019年 けものフレンズ2
アニメーションプロデューサー
2019年 12月23日
一般社団法人日本昔ばなし協会 設立
日本財団 海ノ民話のまちプロジェクト
監督 / 実行委員長

先行き不安な現代において、どう生きるべきかはすでに先人達の昔ばなしの中にあります。昔ばなしを通して、日本の良い文化、精神を現代に蘇らせる事が出来たらと考えます。また、当協会は「恩返し」を一つの行動指針として捉えております。感謝することを忘れずに家族や友人を始め、お世話になった人や場所に恩返しができるような事業を展開していけたらと考えています。

協会の仲間たち



顧問
沼田かずみ

株式会社トマソン代表取締役。社名の由来は「無用の長物・超芸術・いつなくなってもよい」ということから、エイプリルフールの仏滅に設立する。アニメーション制作をはじめ、商業制作など、その他、音響・映像の企画・制作などを手がけており、特にテレビCMやVPなど数多くの場面で使われるアニメーションとCGを幅広く、主に2Dと3Dを融合させた映像を得意とする。

1988年4月、品川区大崎に株式会社トマソン創立、1993年、港区高輪に本社移転、2009年3月、馬込に本社ビルをかまえる。



理事
杉井ギサブロー

1940年、静岡県生まれ。アニメーション映画監督、日本画家。58年、東映動画に入社。『白蛇伝』(58)、『西遊記』(60)のアニメーターとして活躍した後、61年に漫画家手塚治虫が創立した虫プロに参加。TV『鉄腕アトム』の作画や演出、『悟空の大冒険』、『どろろ』の総監督などを担当。69年、田代敦巳らとグループ・タックを結成し、85年、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』をアニメ化し、毎日映画コンクール大藤賞を受賞。その後も『紫式部源氏物語』(87)、『あらしのよるに』(05)などを監督。2010年、文化庁より映画功労賞が贈られた。



理事
藤田健

1948年、東京都谷中生まれ。1970年、株式会社虫プロダクション入社。1971年、TVシリーズ『ムーミン』制作進行。1973年、『小さなバイキングビッケ』制作主任。1974年、株式会社グループタック入社。

『まんが日本昔ばなし』の立ち上げに参加し、制作デスクを担当。その他、『まんが偉人物語』、『まんがこども文庫』など、子供向けアニメーションを中心にプロデュース。

近年では2012年～2019年、テレビ東京『ふるさと再生日本の昔ばなし』のプロデューサーを務める。



地域文化・地域振興研究員
柴田熊至

1998年から指揮者・音楽トレーナーとして国内外で文化・教育活動をスタートし、2018年度から「海ノ民話のまちプロジェクト」の企画監修を務める。また、文化活動が地域に及ぼす効果の研究を皮切りに、地方創生への取り組みをはじめ、現在は地域リノベーターとして地域の魅力を再構成し価値を与える活動を展開。文化事業に留まらず、食、景観、歴史などにスポットを当てた地方創生に尽力し、これまで50を超える自治体で事業を行う。

2020年から地域リノベーションラボ所長に就任。



企画デザイナー
内藤雅之

広告会社でアカウントプロデューサー、コピーライターの経験を積む。広告制作及び、言葉を軸としたプランニングに従事。地方創生のあり方としてエンターテインメントに可能性を感じる。地域を舞台とした映画制作のクラウドファンディングに参加。映画制作スタッフ側と地元の人たちのコミュニティに参加することで、視座を養う。また、自然の恵みを享受しながら生きる人生観と課題を知る。絵本の読み聞かせ。オンラインサロンの運営など。



日本昔ばなし協会はビジョンの達成に向けた取り組みとして
6つの事業の柱を設けています。

伝承

昔ばなしに関わる冊子などのアーカイブ化



1. 昔ばなし図書館

教育

昔ばなしを軸とした生涯学習の支援



2. 昔ばなし大学

交流

先人たちの知恵や想いを紡ぎながら 未来を描くプログラム



3. 昔ばなし未来館

食文化

昔ばなしのコンテンツを生かした 郷土料理を味わうレストラン



4. 昔ばなしレストラン

地域
おこし

昔ばなしに根ざしたまちの活性化



5. 昔ばなしのまち

エンタメ

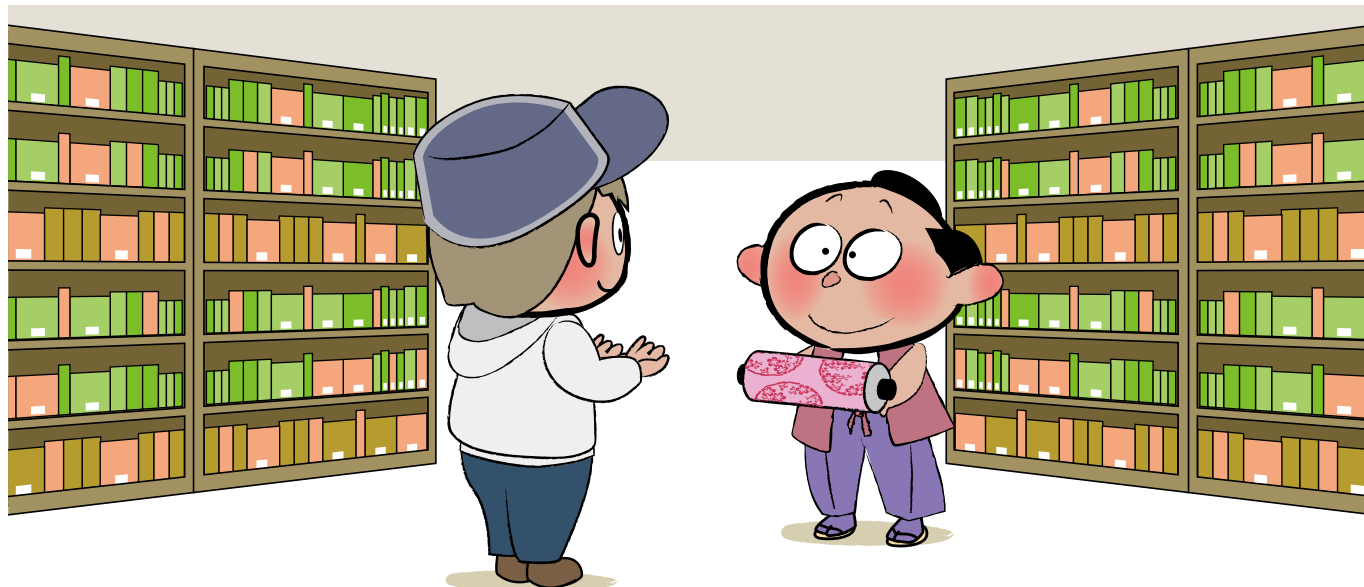
教訓エンターテインメントテーマパーク



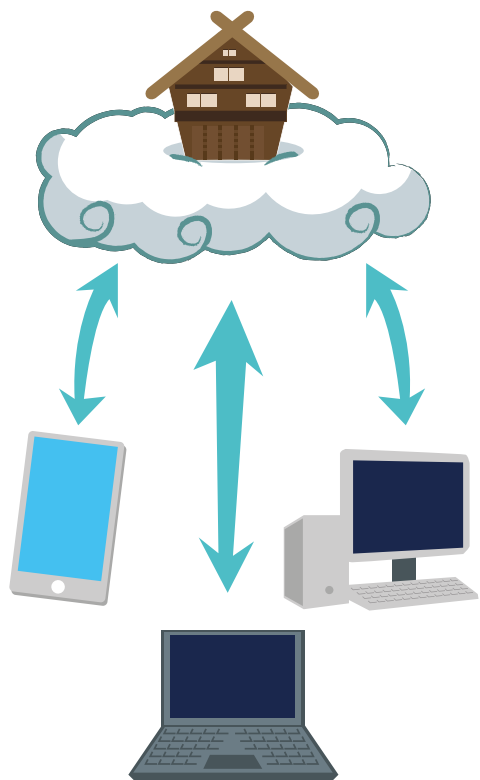
6. 昔ばなしランド



1. 昔ばなし図書館



地域に眠る昔ばなしを守っていくために、希少な文献のアーカイブを行う図書館です。特に地方では、人口減少、高齢化、自治体の合併などで、昔ばなしが失われつつあります。また、そのような文献は、本や冊子などの異なる媒体として存在しているため、貴重な文化が全国で埋もれてしまっている状況でもあります。このような現状から、昔ばなしを掘り起こし、情報を整理し、まとめていくことが、昔ばなし図書館の使命であると考えています。



データベースイメージ図

全国に散らばる文献をデータベースに集約し、会員の皆さまがいつでもわかりやすく閲覧ができ、電子情報として活用できる状態をつくります。また、昔ばなしと地域との連携を行うなど、文献を提供していただいた地域の発展に貢献できるように活用させていただきます。



アーカイブページイメージ図(仮)



2. 昔ばなし大学



人のご縁を大切にする。ふるさとを大切にする。自然とともに生きる。昔ばなしには、生きていくうえで大切な教訓がたくさんあります。これらは、学問や知識の幹となり豊かな心を育んでいくと考えています。物語を読み解き伝えていく語り部の育成、アニメや伝統芸術の領域で活躍する匠たちによる文化芸術の研究、社会課題に向き合う専門家を交えた講義など、深く広がりのあるカリキュラムで生涯学習を支援します。

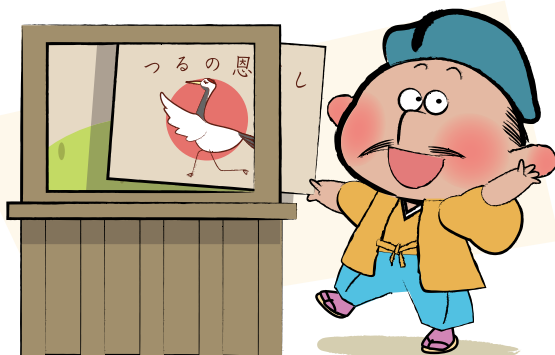


昔ばなし大学 校章

学びの紹介 (一例)

- ・ 語り部育成
- ・ 絵本の読み聞かせ
- ・ 民謡
- ・ 日本舞踊
- ・ 盆踊り
- ・ 紙芝居づくり
- ・ 絵コンテづくり (アニメ)
- ・ 俳句

…など

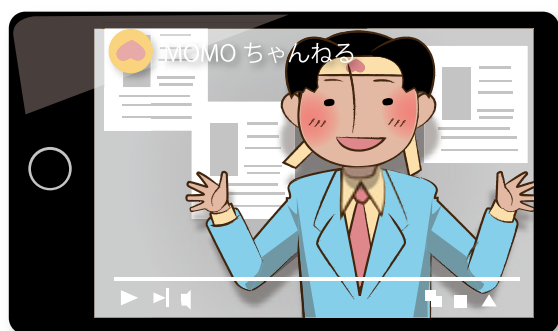




3. 昔ばなし未来館



昔ばなしの時代背景や文化を見つめなおし、先人たちの知恵や想いが生きる未来を創造していくことを目指しています。協会のメンバーとともに、恩返しで社会を豊かにするオンラインコミュニティの開設や、恩返しができるコミュニティ通貨の開発。及び、日本全国の特産品がならぶECサイトの構築や、VRで表現する体験型のイベントなど。これらの新しい取り組みを、最先端の技術の導入とともに展開していきます。



オンラインコミュニティ ONGAESHIサロンを開設

昔ばなしには「鶴の恩返し」のように、感謝の気持ちを伝えることを大切にする「恩返し」という文化があります。「ONGAESHIサロン」は善意で巡る社会の一員になるために「恩返し」の文化の大切さを伝えていくオンラインコミュニティです。日本の昔ばなし（アニメ）を軸に、地方創生につながるような事業を展開し、日本全国の魅力を盛り上げていきます。

オンラインビレッジ 昔ばなしの里 オープン

昔ばなしの世界が反映されたバーチャル空間で全国の農家さんやお土産屋さんに出店いただき、昔ばなしの里の生産者さんを支える仕組みづくりに貢献します。お客様はサイト内を自由に動き回り、全国の生産者さんと交流しながら、ゲーム感覚でショッピングを楽しむことができます。また、昔ばなしに関わるクリエイター達のオリジナルグッズも取り揃えています。

恩返しがテーマの コミュニティ通貨を開発中

「恩返し」や「恩送り」として相手に贈ることができるコミュニティ通貨『心之コイン』を開発しております。信用力をはかるモノサシとなることや、昔ばなしコミュニティでモノやサービスと交換することができる予定です。



詳細は13Pへ



4. 昔ばなしレストラン



ふるさとの四季を視覚や味覚を通じて味わいながら、昔ばなしの世界へ没入することができます。自然の恵をふんだんにもちいた手料理は、体に優しいことはもちろん、都会では出会うことが難しい素朴な美味しさを提供します。郷土料理をはじめ、昔ばなしの世界観の料理を楽しめます。

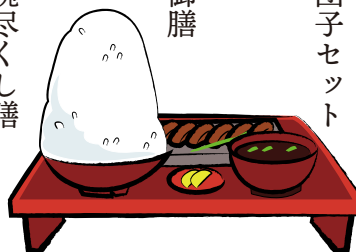


石臼が引いた
塩なべ焼きうどん



人参とゴボウと大根の美人鍋

一寸法師のお椀尽くし膳



乙姫様の竜宮御膳

桃太郎のきび団子セット

お品書き
(一例)



5. 昔ばなしのまち



地域と昔ばなしには、深い結びつきがあります。私たちは、昔ばなしを伝えていく活動の一環として、地域との連携にも力を入れています。地方自治体と協力しながら、昔ばなしとその地域に暮らす人々の、魅力・価値を掘り起こして、明かりを灯す活動を続けていきます。また、そのような町を「昔ばなしのまち」に認定させていただき、アニメ化など地域を盛り上げる施策に取り組みます。

地域の昔ばなしをアニメ化する「ふるさと納税」



返礼品のひとつとして、経験豊かなクリエイターが地域の昔ばなしをアニメ化（DVD）します。地域を離れた人は、改めてふるさとへの愛着を育むことができ、生まれ育ったまちの文化や教訓を、コミュニケーションツールのひとつとして、お子さんとも楽しんでいただけます。全国にエンターテインメントとして、地域の魅力を伝えるお手伝いができればと思います。

海ノ民話のまちプロジェクト（海と日本 PROJECT）



「海ノ民話のまちプロジェクト」は、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施するもので、海と深く関わりを持つ日本という国の「海との関わり」と「地域の誇り」を、子供たちに伝え語り継ぐことを目的とし、2018年に発足したプロジェクトです。

日本中に残された海にまつわる民話を発掘し、その民話のストーリーとその民話に込められた「思い」「警鐘」「教訓」を、親しみやすいアニメ等の映像表現で、次の世代を担う子供たちへ、そして、さらに次の世代へと語り継いでいます。



6. 昔ばなしランド



まだ文字がなかったころ、人々は教訓などのメッセージを物語に込めて語り継ぐことによって後世に伝えてきました。その意味では、昔ばなしを歴史的なエンターテインメントと呼ぶこともできます。昔ばなしランドは、このような昔ばなしを体験できるアトラクションからなるテーマパークです。アトラクション一つひとつに、物語と連動した教訓が組み込まれ、楽しむことと同時に、学ぶことができます。例えば、「お宿探しの舌切り雀ライド」では、車両に乗って前に進んでいくと、大きなつづらと小さなつづらで二手に分かれます。小さなつづらを選べば、楽しい世界が現れ、欲を描いて大きなつづらを選ぶと、魔物や妖怪がいるおそろしい世界に進みます。アトラクションを体験することで、欲をかいてはいけないということが学べるのです。楽しみながら学べる新しいテーマパークとなっています。

アトラクション イメージ

動物と触れ合い
友情を育む金太郎館

浦島太郎と
海の生き物を学ぶ龍宮城館

努力!友情!勝利!を学ぶ桃太郎館

花さか爺さんの花時計

シロと探す宝探し

お宿探しの舌切り雀ライド

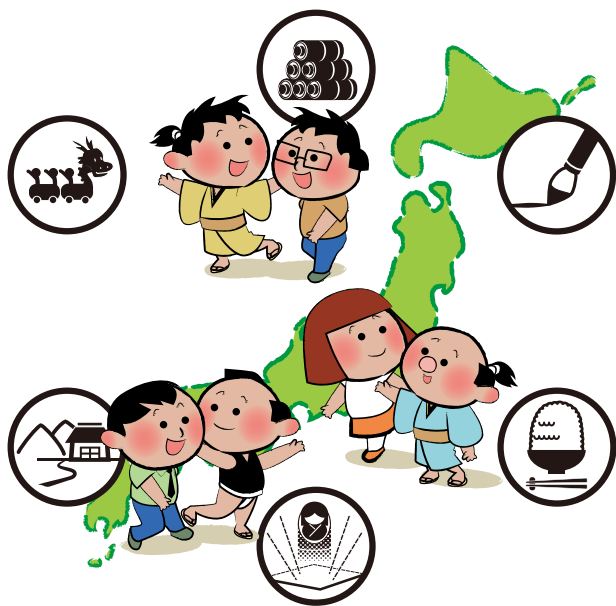
…など



昔ばなしランドは現在企画構想中です。

「恩返し」で世界をつなぐ

昔ばなしをそれぞれのテーマにそって読み解き展開した6つの事業。これらの事業の礎にある昔ばなしには、先人たちの思いが宿っています。その思いは事業を越えてつながり、それぞれの事業を導いていくものと信じています。私たちは、今日の日を築いてくれた先人たちへの恩返しの気持ちを込めて、明日を担う次の世代の人たちへ恩返しを続けていきます。



みらい

ブロックチェーン技術を使い
地方を幸せにする仕組みづくり

地方のオンラインコミュニティを作る

昔ばなしの世界をVRで体験

「日本の昔ばなし」の原画展示

きびだんごやおむすびなど、
「昔ばなし」に登場する料理教室の開催

「ワークショップ」機織り機で手拭いを作る

稲刈り体験や里山でのくらし体験

蓑や編み笠など、江戸時代などで使われていた
日常的な道具などの展示・保管

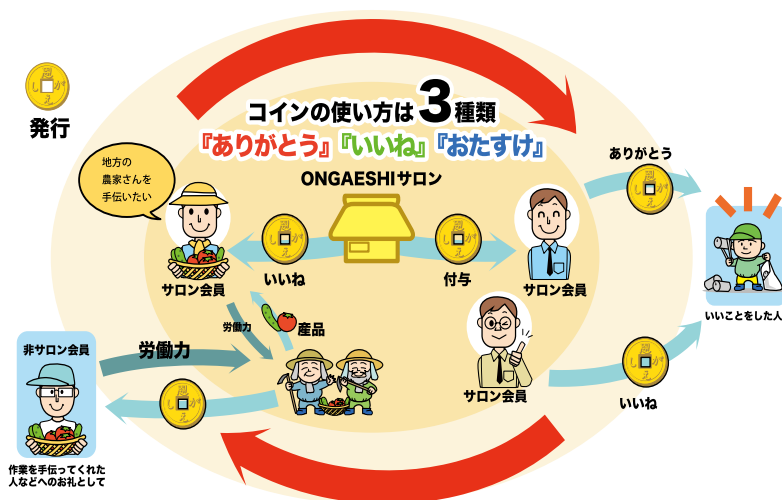
むかし

かわら版

恩返しの作法がテーマの「ONGAESHIサロン」とは

コンテンツ

- ・月に一度のオンライン交流会
- ・沼田理事の365日記事配信
- ・不定期のライブ配信
- ・アニメ関係者と対談
- ・地方創生で活躍されているかたとの対談
- ・コミュニティ通貨「心之コイン」の活用
- ・ECサイト「昔ばなしの里」の開発への参加



感謝の気持ちを気軽に伝えられる人になる。「ONGAESHIサロン」が一番大切にしている心です。そのような心を育むことができれば、一人ひとりが主人公でありながら相手を敬えるコミュニティが生まれるのではないかと。そのために必要なことを、私たちは「恩返しの作法」と呼んでいます。良いことをした人が幸せになれる「昔ばなし」のように、現実の社会でも、感謝を大切にすると人が評価される、お金には変えられない価値があってもいいのではないのでしょうか。私たちはそのような思いから、感謝の気持ちと地方の特産品などを交換できるような仕組みをつくることや、感謝でめぐる通貨の開発などで、社会課題の解決につなげていくことを目指しています。「恩返し」を贈りあえる世の中を一緒に作りあげていけたらと思います。

ONGAESHIサロン 第1期生を募集中です。

入会案内

「恩返師」になれる名刺を進呈

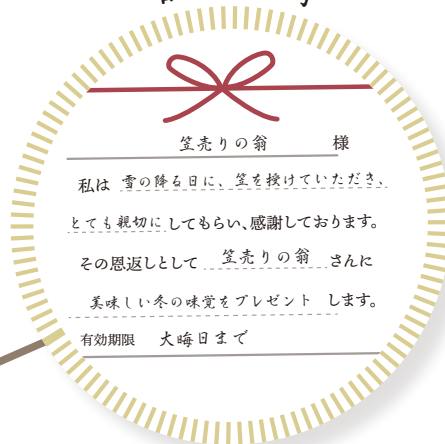


表面



裏面

記入例



協会の理念に賛同し、ご入会いただけただ方には、
恩返しができるあなたの名刺（100枚）をお送りしています。
恩返しの想いを名刺に記して、100人に恩返しをお届けください。

入会申し込み

日本昔ばなし協会の趣旨にご賛同いただき入会をご希望される方は、下記メールアドレスに必要事項をご記入のうえ、送信をお願いいたします。

【事務局】 一般社団法人 日本昔ばなし協会
〒143-0025 東京都大田区南馬込 5-19-3 Tel 03-5743-7030
Mail info@nippon-mukashibanashi.or.jp

【会員期間】 ご入金をいただいた日から1年間といたします。

【諸権利】

- ・アーカイブ資料の二次利用および映像化権等に際しての諸権利は、一般社団法人日本昔ばなし協会に帰属するものとします。
- ・当協会は、全てのアーカイブ資料をホームページ等で掲載させていただく権利を有するものとします。
- ・資料をご提供いただいた会員様は、アーカイブ資料を閲覧することができます。

入会特典・入会時に取得する情報

区分		特別会員	企業会員	自治体会員	個人会員	賛助会員
特典	広告利用	●	●			
	新規取り組み	●				
	アーカイブ	10本	10本			
	アーカイブ閲覧権	●	●	●	●	
	会報・機関紙	●	●	●	●	
	限定グッズ (ポストカードなど)	●	●	●	●	●
	恩返師 オリジナル名刺	●	●	●	●	●
年会費 (税別)		1,000万円～	100万円～	10万円	1万円	～1万円
必要な情報		代表者氏名・役職・住所・電話番号・ 携帯番号・メールアドレス			生年月日・氏名・住所・電話番号・ 携帯番号・メールアドレス・職業	

入会資格

入会に際しての条件は以下の通りです。理事会での審査を通過されたかたはご入会の案内をお送りいたします。条件を満たさなかった場合は、入会の承認が行われません。この場合、当協会は入会を拒否した理由を開示する義務を負いません。

- ・当協会の趣旨・事業にご賛同いただけること。
- ・法人・団体においては、公序良俗に反しない健全な経営を行い、かつ、安定した経営基盤を有していること。
- ・個人においては、健全な意識及び行動規範を有していること。
- ・当協会の組織運営を不当に錯乱させ、社会通念上、秩序を混乱させる行為を行わないこと。
- ・反社会的勢力ではないこと。
- ・反社会的勢力と資本関係、業務関係、取引関係、交友関係その他の関係がないこと。



「喜捨(寄付)」承ります



きしゃ【喜捨】の解説
[名詞] (スル) 進んで寺社、僧や貧者に金品を寄付すること。「修行僧に喜捨する」

日本昔ばなし協会では、貴方の善意を受け付けています。お金は様々な地域おこしの事業費に、品物の場合は、ボランティアスタッフの福利厚生として、我々の恩返しの輪の中に組み込んでいきます。一万円分以上の金品を頂いた場合は、恩返し状とオリジナルグッズを返礼品として差し上げます。

一般社団法人
日本昔ばなし協会



一般社団法人 日本昔ばなし協会

〒143-0025 東京都大田区南馬込 5-19-3

TEL 03-5743-7030 FAX 03-6673-5861

HP <https://www.nippon-mukashibanashi.or.jp>

Mail info@nippon-mukashibanashi.or.jp

Design 浅野ひな子

Writing 内藤雅之

Illustration 村田修

Key Visual 小名木麻起子

Clay Doll & Photo 渡邊和己

Photo 地域リノベーションラボ

2020年7月31日 初版発行

